

校長室だより

第13号

発行日 2007年 7月 9日

発行者 桐光学園小学校長 斎藤 滋

【自転車】

小学校ではこれまで通学時に自転車を利用することについて特に子どもに注意を促すようなことがありませんでした。もちろん、学校まで自転車に乗ってくる子はいないのですが、何人かが自宅から最寄りの駅までの交通手段として自転車を利用しているようです。自宅から栗平駅までの安全の確保についてはそれぞれの家庭で指導していただくことにしていますから、その子どもたちも保護者の許可のもとに自転車を使っているのでしょう。しかし、ある子どもが「寝坊して家を出るのが遅くなったときに自転車を使うことがあります。」と言っていたこと思い出し、保護者の皆さんにも子どもの自転車利用について少し考えてもらう必要があるのではないかと考え始めました。

自転車は「軽車両」の中に含まれることはご存知でしょうか。道路にある標識には自転車も従わなければならないものがたくさんあります。信号を守る、二人乗りの禁止、右左折の合図などは言うまでもなく、大人になるとお酒を飲んで運転することも違反行為となります。子どもたちが交通ルールを正しく理解しているとは思えませんので、必要なルールとマナーはそれぞれの家庭で教えてから利用させるようにしなければなりません。

また、自転車事故というと、車と自転車との関係を思い浮かべる方が多いと思いますが、実は、自転車同士の衝突事故や自転車と歩行者との衝突事故が多いことも忘れてはいけません。この場合の事故では、子どもが加害者になることがあります。車は車道、人は歩道、では自転車は？ということ大人でも分からないことが多いです。自転車に乗る子ども、歩道を歩く子ども自分の安全を守るためにできることを考えなければなりません。

【子どもだけの外出】

子どもたちだけで、映画を観に行く、遊園地に行くなどを学校では許可していません。それ以前に、子どもだけの外出を許可する家庭があるとは想定していませんので、これまでも子どもたちに繰り返し指導するということはありませんでした。長期休みの前に配付するプリントなどには簡単な注意を書いていましたが、この件については子どもたちにも、保護者の皆さんにも理解してもらっていることだと認識しています。

ところが、実際には高学年にもなってくると、子どもたちだけで活動できる範囲がどこまでなのかの判断がご家庭によって違ってくることがあるようです。学校の考え方は原則的に変わるものではありませんので、まずはそこに戻って判断をしてください。

子どもたちが巻き込まれる事件、事故がしばしばニュースや新聞で報道されます。それは数え切れないほど発生している事件、事故のほんの一部であることは容易に想像できます。私たちにできることは、子どもをそういう危険な場所に行かせないことくらいなのかもしれません。少なくとも、何かあったときに自分でどうしたらよいかの判断ができるようになるまではもっと大人が積極的に関わっていくようにしましょう。

【感謝の気持ちを伝え合おう】

私はここ数年3年生の総合の授業のお手伝いをさせてもらっています。主な活動の場は、農園とコンピューター室です。農園では、作物を育てながら土に親しむようにしています。また、コンピューター室では、これまでコンピューターに触れたことがないことを前提にし、基本的な操作方法を覚えたのちに、ペイントやワープロソフトを利用した活動に取り組みます。今、文字の入力でローマ字入力をすることに挑戦中です。

このような活動をしている際に、個人的に質問をすることが必要になることがあります。私たちが拳手をした子どもたちのところに行ってその質問に答えると、ごく自然に「ありがとうございました」という言葉が子どもたちの口から出てくるのです。これまでも子どもたちからそういう言葉は何度も聞いていたのですが、あまりの心地よさに「何故なんだろう」と考え込む自分がそこにいました。先生に教えてもらうこと、お家の人にお弁当を作ってもらったり、友だちにやさしくしてもらったりなどは、「当たり前」のことと考えがちなのですが、当たり前のことでも自分が何かしてもらったときに「ありがとう」という感謝の気持ちを自分の言葉で伝えることができることは素晴らしいことです。人と人とのコミュニケーションはこういう感謝の気持ちの伝え合いから始まるのかもしれない。（この話は6月26日の朝会で子どもたちにもしました。）

【子どもが安心して話すことができる環境を】

完全副担任制に向けて、担任と副担任、さらには専科の教員とのよりよい連携のあり方を模索しています。本来一人の教員がクラス30数名の児童を見守り、指導することが普通に行われている小学校の中であって、桐光学園小学校の取り組みはそのねらいが達成されればかなりの教育的な効果が期待できます。

ところが、こういう取り組みをしても、「子どもが自分で先生に言えないようなので、お電話しました。」という保護者からの連絡をいただくことがあります。子どもが「この先生なら安心して何でも話せる」と思ってくれるような、子どもと教員との信頼関係を作っていかなければなりません。

（お知らせ）7・8月はグループ討論会を行いません。